

## 厚生文教委員会行政視察報告書（令和7年10月22日）

日 時：令和7年10月22日（水）
視 察 先： 富山県滑川市
視察事項： 学力向上への取組について
<b>内 容</b> <p>滑川市は、金属や機械、医薬品などの製造業が盛んで、市民一人当たりの製造品出荷額が令和4年度まで県内第1位であった「ものづくりの町」である。そうした地域性を教育にも反映させ、市の学力向上への取組において、「科学の時間」を創設している。そこで、今回の視察では、「科学の時間」を中心とした学力向上の取組について、滑川市教育委員会から説明を伺った。</p> <p>滑川市では、「ものづくりの町」の基礎となる人材の育成を目指し、2015年からの検討を経て、科学・理数・ものづくり教育の推進を掲げた「科学の時間」を2017年度から開始。人材育成に加え、体験的活動等を重視した主体的、対話で深い学びの展開、豊かな自然を活用した学習によるふるさとを愛する個々の育成、食育や環境教育、プログラミング等の学習による自然愛護や生命尊重の心、情報化社会に生きる力の育成を目的として掲げ、学習指導要領に基づく教科指導とのバランスを取りながら、小中学校9年間の一貫した教育として滑川市の判断で特別の教育課程として実施している。</p> <p>実施に当たっては、「滑川市探求・科学教育推進協議会」を起ち上げ、中学校区ごとに合同のグループを形成し、優れた内容については横連携で情報を共有しながら推進されてきた。</p> <p>学習内容には、市の自然環境や街の歴史、地元企業の協力を得た体験型など様々な取組を行っている。</p>
<b>視察を終えて</b> <p>この取組の成果としては、身近な科学の話題やモノづくりへの興味・関心の高まりやきっかけを作ることができ、生きて働く知識の獲得や技能の向上につながっているようである。課題としては、学力調査における科目の正答率の改善や課題設定から結論を導くための学び方の定着など、向上の余地があるとのことだった。</p> <p>地域の特性を生かして、様々な予算を活用しながらカリキュラムを組み、横連携が可能な組織を作り優れたメソッドを共有している。</p> <p>生徒たちにも「チャレンジ・サイエンス」全校発表会という、各学級の代表が全校集会で学習成果を発表するアウトプットの間がある。ここでは、まとめたことを原稿なしでプレゼンテーションをすることになっており、まるで学会のように質問が出るそうだ。愛知大学の西本教授は「プロセスが科学的であれば、科学である。研究者がやっていることを体験している」と評価している。</p> <p>行政と学校と地域が連携をしながら、学力向上を目指す大変先進的な優れた取組であると感じた。</p>

※視察の資料等については、議会事務局に保管してあります。

## 厚生文教委員会行政視察報告書（令和7年10月23日）

日 時：令和7年10月23日（木）
視 察 先： 富山県富山市
視察事項： 「所管事務調査：魅力ある図書館の在り方について」-富山市立図書館本館の取組を中心に
<b>内 容</b> <p>所管事務調査に伴う他自治体の視察の一番目として富山市を訪問した。市内図書館の中心となる図書館本館は、デパートの移転による空き地利用として建設された複合施設「TOYAMA キラリ」内に設置されている。「TOYAMA キラリ」は著名な建築家・隈研吾氏の設計である。市の中心的な産業の一つであるガラス工芸の振興を図る拠点として開設された「富山市ガラス美術館」と地域の主要な金融機関である富山第一銀行もこの複合施設に入っている。</p> <p>図書館は、2階から5階まで各閲覧フロアで6階が書庫と事務所となっている。「まちなかのリビングのような図書館」をコンセプトの一つとして掲げ、約500席と座席数も多く、全世代が滞在して心地よい空間となるよう工夫しながら運営されていた。試験の近い学生などもよく利用する学習室や、お子様連れがくつろぎながら絵本を読めるスペース、座りながら読書できるガラス工芸の展示スペースなど、施設の特性を生かした仕掛けも多い。拡大読書機や音声読書機も設置し、点字絵本やLLブックなどインクルーシブ機能の持つ設備も充実していた。</p> <p>富山市は、「The New York Times」の「2025に行くべき52カ所」(52 Places to Go in 2025)の一つとして選ばれており、当日も多くの外国人観光客が来館しフォトスポットで入れ替わりに撮影していた。</p> <p>図書館は直営方式で運営されているが、本館受付と分館窓口業務は委託をしているとのことであった。</p>
<b>視察を終えて</b> <p>市街地再開発が進められる中で、当該地が中心市街の重要なエリアに位置することから、富山市が従来、施策として進めている「公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり」の一環として、市民誰もが親しめる公共施設として、ガラス美術館や図書館が「TOYAMA キラリ」に整備された。見事なデザインも評判で国内外からの集客も着実に実績を上げている。</p> <p>そのうえで、視察の質問項目「市民にとって『魅力ある図書館』とはどのようなものと考えているか」に対し、「知的好奇心が刺激されるような図書館」「仕事、健康等、市民が抱える課題の解決に役立つ図書館」を挙げられていた。実際、幅広い世代に多く利用してもらえるような座席数やスペースの確保に加え、教育・学習活動の拠点として読書相談・調査相談の強化や、多彩なイベントの開催、地域事情に合わせた資料の重点収集など、この回答のように、ハード面だけでなくソフト面においても市民に満足と魅力を感じてもらえる取組を進めていると実感した。全国的にも著名な図書館であり、所管事務調査の1回目として大変価値のある市外図書館の視察となった。</p>

※視察の資料等については、議会事務局に保管してあります。

## 厚生文教委員会行政視察報告書（令和7年10月24日）

日 時：令和7年10月24日（金）
視 察 先：新潟県糸魚川市
視察事項：0歳から18歳までのこども一貫教育について
<b>内 容</b> <p>糸魚川市では平成21年度に「0歳から18歳までのこども一貫教育方針」を策定し、その後第1期から第3期までの「こども一貫教育基本計画」を策定し、校舎一体型の小中・中高一貫教育校でなく、0歳から18歳まで一貫した教育方針の下、市民総ぐるみで子育てを行う政策を進めている。現在は第三期の基本計画を実施中。家庭・地域・教育機関（園・学校）の3者が協力しながら、「豊かな心」「健やかな体」「確かな学力」を3つの柱に掲げ「ひとみかがやく 日本一の子ども」「郷土愛にあふれ夢をかなえる人づくり」をテーマにして18歳での自立を目指して子育て支援・教育に取り組んでいる。</p> <p>主な取組に、①家庭・地域との連携強化（教育懇談会の開催等）②高校魅力づくり支援（補助金や高校魅力化コーディネーターの配置）③いじめ・不登校対策（生徒指導支援員の配置等）④生活リズムの改善（早寝早起きおいしい朝ごはん事業等）⑤学力向上対策（学力向上いといがわプラン、漢字・英語・数学検定料助成、中学生海外派遣事業等）⑥キャリア教育の推進（キャリアフェスティバルいといがわ等）⑦ジオパーク学習の推進（ジオパーク学習交流会の開催等）⑧自立と社会参加を目指したとぎれない支援（ライフステージにおける発達支援等）、の8つがある。成果としては、1）家庭、園・中学校、地域の連携・協働による取組が進んでいる2）「早寝早起きおいしい朝ごはん」運動が定着している3）郷土愛が醸成されている4）高校と市教委、高校と中学校の連携の各視点からの言及があった。</p>
<b>視察を終えて</b> <p>一貫教育というと、小・中や中・高の一貫教育校における学力向上等を目指した取組と考えがちだが、糸魚川市では0歳から18歳までと、生まれてから自立するまでの期間を地域総ぐるみで支援していくという、独自の視点を持った政策を進めていた。この点が非常に新鮮に感じた。</p> <p>日本国内で初めてユネスコ認定となった「世界ジオパーク」の街の特性を生かした自然教育や、地元企業や産業界の協力を得て全中学3年生が参加する「キャリアフェスティバルいといがわ」開催によるキャリア教育の展開、高校魅力化コーディネーターの配置など、ユニークな取組とその成果について大変学ぶところが多かった。</p> <p>基礎学力の定着や学校と家庭・地域住民とのさらなる連携、一貫教育の形骸化を防ぐなどを、長い期間にわたり施策展開をしてきた中で見出された、次の課題として挙げられていた。どの地域も子供の数が少なくなっていく中で、如何にして今いる目の前の子どもたちの成長を助け地域や社会に活力を送っていくか、地方自治体における教育の重要性を再認識した。</p>

※視察の資料等については、議会事務局に保管してあります。